

グローバルとローカルを 統合した人材育成に向けた 全学的な取り組み

私立大学等改革総合支援事業タイプ4（選定：平成26～29年度）

共愛学園前橋国際大学



取組のポイントや補助効果

- ◆ グローカルという教育目標に基づき「グローバル人材育成」に徹した大学改革
- ◆ 大学と教育カリキュラムのグローバル化と海外プログラムを通じた学生の成長

共愛学園前橋国際大学の紹介文は、10ページ私立大学等改革総合支援事業タイプ1参照。

取組の目標・目的

「KYOAI GLOCAL PROJECT」の取り組み全体の目標は、次世代の地域社会を牽引するグローバル・リーダーの育成にある。その中で、私立大学等改革総合支援事業タイプ4は大学にとって取り組みの中心に位置づくものであった。

建学の精神は「共愛＝共生の理念」である。大学を巣立つ一人ひとりが人々と共に、そして社会と共に、自律的かつ協働的に生きるための素養を身に付ける。

教育目標は「国際社会のあり方について見識と洞察力を持ち国際化に伴う地域社会の諸課題に対処することのできる人材の育成」、「グローバル・リーダーの育成」を掲げている。そのためにはキャンパスにおける主体的で協働的な学修のみならず、国際舞台における実践的な学びも重要であり、目標を実現するための特別なプログラムの構築や学生への支援を通じて成果を上げることも求められる。

また、大学が目指しているのは単なるグローバル人材の育成ではなく、地域社会を牽引する「グローバル人材」の育成であり、地

域との連携も重要である。その建学の精神と教育目標を具現化するために地域連携によるグローバルな取り組みを実践している。

当大学の建学の精神と教育目標は、「KYOAI GLOCAL PROJECT」の指針でもあり、私立大学等改革総合支援事業タイプ1に関連して、「共愛12の力」としてまとめた学修成果指標に反映されている。

取組に至る背景や問題意識

開学以来、海外研修や語学教育の充実に力を注いでいるが、一部のコースのみでの取り組みや、地域との結びつきで弱い点があった。総合的にグローバル化する地域の中でグローバル人材と地域人材の育成を「共愛＝共生」で体現し、人々をつなぎ牽引する人材を育成することが、県内で唯一「国際」を冠する大学であり、国際社会学部を有する大学の使命だと認識している。

この認識を背景として、いかにグローバルとローカルを統合した教育を全学的に展開し、そのモデルを提示できるかが大学としての重要な使命と捉え、その問題意識から現在の取り組みに至っている。

取組内容

(1)～(5)は本事業を実施するに当たって、土台となる基盤的な取り組みである。

- (1) グローバルセンターの設置
- (2) グローバル化ポリシーの設定
- (3) 英語コース必修海外留学及びさまざまな海外プログラムの展開
- (4) プレイスメントテスト、セルフスタディ、少人数レベル別クラス編成、外国語センターの開設等による語学教育
- (5) コース横断で履修可能な副専攻の設置 (Global Career Training)

(6)～(9)は大学独自で開発するなど、大学としての特徴的な取り組みである。

- (6) グローバル人材育成協議会の設置
- (7) 地域連携によるGlobal Project Work授業の創成 (ミッショングローバルや海外サポートインターン等)
- (8) 英語のみのアクティブ・ラーニングやインターネットによる1対1の英語学習

(9) 国際交流センター (国際寮) と日本人学生による管理運営の実施

海外の異なった文化や習慣を持つ生活者の言葉や意識、海外の地域で生きる民族の感情や思いは、情報としてはあまり伝わってこない。本当の意味での国際交流や相互理解を目指すには、その国の日常生活の中に身を置いて、さまざまな人々と暮らすことが肝要である。当大学では、学生時代に海外における文化の多様性について身を持って学ぶ、異文化共生を目指した海外留学・研修制度を実施し、グローバルな視野、考察力、行動力を育てるための特色あるさまざまな海外研修プログラムを展開している。

海外プログラムの経験を在学中に一度は経験してもらいたいという思いから、参加費用をできるだけ抑えるために専門業者を介さず、教員が手作りでプログラムを開発しているものも多い。ベトナムで実施するアジアフィールド研修は、現地学生との交流を行う2週間のプログラムで約10万円の設定である。

グローバル化 取組

取組の例

- 1 グローバルセンター設置
IN/OUT支援機能を統合
Global専門員を配置
- 2 グローバル化ポリシー (目標) の設定
- 3 地域グローバル人材育成協議会と地域の国際化と運動
- 4 地域連携による Global Project Work
- 5 英語のみ授業増 Global Skills科目群
- 6 1対1英語学習を含む実践的語学教育とレベル別少人数クラス
- 7 様々な海外留学プログラムと英語コース必修の海外留学
- 8 Global Career Training 副専攻の設置
- 9 海外大学との協定増 交換留学生増 交流センター設置
- 10 外国語センターの運営 中国語の第一外国語化
- 11 各種Globalイベント
■ Coffee & Talk/Drink English
■ ブチカフェランゼ・ドリンク
■ 中国語・ドリンク韓国語
■ 各種語学コンテスト
■ Global Business Seminar
ETC.

特徴的な取組をPick Up

1 Global Policy: 「次世代の地域社会を牽引するグローバルリーダーの育成」
語学力・留学者数・留学生数・外国語による授業数・外国人教員等数・独自グローバル・ポイント等の目標を設定

2 グローバル人材育成協議会
地元サンデンホールディングス(株)・伊勢崎市教育委員会と協議会を設け、児童生徒・学生・企業人も共に学ぶプログラムを開発。



地域グローバル化と運動
前橋市要請によりブルガリアの大学と交換留学。大使と市長と学生がキャンパスにバラの植樹。地元商工会のインバウンド戦略に参画など。



3 地域連携によるGlobal Project Work

Mission Global研修
地元サンデンホールディングス(株)のタイ現地法人にて社長から日々ビジネスミッションを課され、バンコクというアウェイの地にて、個人・チーム独力でこなし地獄の研修。



海外サポートインターン
群馬県伊勢崎市の中学生の海外研修を事前・現地・事後とサポートするインターン。英語力を駆使して生徒を支援・指導。事後には広報で市民へ報告。ふるさと学習も生徒と共に実施。



児童Global Workshop
伊勢崎市の小学生が大学に集うGlobalをテーマにしたWSを企画・運営。Globalとは何か、保護者のニーズは、教育委員会の指導を受けながらゼロから企画するハードプログラム。

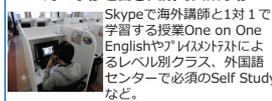


4 英語のみの授業 Global Skills科目群
英語のみでアクティブラーニングを展開。毎日夜間に開講し、地域お茶会や教員も参加できる。



Multi-Cultural Understanding
Multi-Cultural Communication
Global Leader Ship I/II
Global Business Training I/II
Problem Based Learning I/II
Team Based Learning I/II

5 1対1 学修を含む実践的英語学修
Skypeで海外講師と1対1で学習する授業One on One EnglishやアリスAIシステムによるレベル別クラス、外国語センターで必須のSelf Studyなど。



6 様々な海外留学プログラム

<英語コース必修>
長期留学: USA
中期留学: USA
短期留学: NZL・IRL
CAN・AUS

<語学留学プログラム>
長期留学: USA・CHN
中期留学: USA
短期留学: AUS・CAN・KOR
CHN(西安)・CHN(上海)

<体験型研修>
海外ティーチング研修: AUS
海外フィールドワーク: PHI・KOR・TPE・USA(ハワイ)
ヨーロッパ研修: BUL→ROM
アジア異文化研修: THA・TPE
アジアフィールド研修: VIE
ミッショングローバル研修: THE
海外研修サポートインターン: USA



7 Global Career Training副専攻

Global Language Intensive

38科目

語学

Global Skills 理論

10科目

スキル

Global Project Work 実践

4科目

実践

3領域からなるコース横断型かつ15科目。英語のみ授業のGlobal Skills科目群や地域連携のGlobal Project Workが含まれる。

8 交流センター (国際寮)
留学生との交流スペースとしての交流センター。交換留学生の宿泊も可。日本人学生が学びの一環として管理する。



■グローバル・ポイントは本学独自指標。社会人基礎力と海外や群馬県への親和性を測る。■Skypeはビデオ通話可能なインターネット電話サービス ■USA=アメリカ、NZL=ニュージーランド、IRL=アイルランド、CAN=カナダ、AUS=オーストラリア、CHN=中国、KOR=韓国、PHI=フィリピン、TPE=台湾、BUL=ブルガリア、ROM=ルーマニア、THA=タイ、VIE=ベトナム

図1 グローバル化取組

81

タイで実施するミッショングローバル研修は、地元群馬のグローバル企業と協働で開発したビジネスの課題解決を疑似体験するプログラムである。日本で行う事前学修の内容は、プレゼンテーションの基礎講座やマーケティング講座の特別学修である。帰国後の事後研修は、最終報告会として協働企業において企業人の前でプレゼンテーションを実施する。学生からは難易度の高い研修として有名である。

現地のマーケティング調査ではタイ語しか通じない場合もあり、最初は戸惑う学生も多いが、時間が迫ってくるにつれ自然と自ら考え、その時の状況に対応していく様子が見られる。学生が宿泊先から出られなくなったこともあったが随行した専門員が寄り添い、翌日から研修を続けることができた。厳しい研修だが、この研修を体験することで学生は鍛えられる。

この他には、今後の教員養成ニーズにあわせて実施した海外ティーチング研修がある。オーストラリアのアデレードは、日本文化に関心が高い都市で1年生から日本語を教える小学校が数多くあり、アデレードを州都とする南オーストラリア州の教育庁と協定を締結して事業が始まった。現地の小学生に対して、日本の文化や群馬県の風土について英語で授業を行う。

この研修ではホームステイも経験し、休日にはオーストラリアの自然や文化を体験するなど充実した時間を過ごす。本研修は語学研修ではないが、学生からは英語を話すことに抵抗がなくなり、学習意欲がさらに高まるといった評価を受けている。

また、グローバル人材に必要となる知識、スキルの習得を目的に2013年度にコース横断で履修可能な副専攻である「Global Career Training副専攻」を開設した。その専攻は「語学」、「理論・スキル」、「実践」の3領域で構成され、理論やスキル科目はすべて英語で

行うアクティブ・ラーニングである。実践では異文化理解を深める研修から海外で行うビジネス課題解決型研修まで幅広く準備しており、30単位以上の習得で修了書を授与するプログラムである。

2015年度に協定締結大学からの交換留学生向けの国際寮を開設した。留学生は日本語能力検定2級以上の語学力はあるが、全員、日本での生活が初めてということもあり、日本人学生と一緒に寮に住んで生活をサポートするレジデンス・アシスタントや、日本の生活に慣れるための各種イベントを企画する学生サポーター等を配置し、バックアップしている。その学生アシスタントやサポーターは、寮の円滑な運営を目的とした教職員で組織される国際寮運営委員会等にも参加し、寮内での出来事を報告・共有して年間を通じてイベントの企画立案を行っている。

実施体制

実施体制については12ページの私立大学等改革総合支援事業タイプ1と同様である。

具体的な取り組みについては、国際交流センターと留学生支援センターを統合し、グローバル専門員を配置したグローバルセンターが中心的な役割を担っている。海外プログラムについては、内容に応じてグローバルセンターのみならず、英語コースや国際コースが主管している。

取組後の変化

目標と目的の達成については、私立大学等改革総合支援事業タイプ1と同様に社会・他大学から高い評価を受けている。グローバルへの取り組みとしては、群馬県内の教育機関からも評価され、伊勢崎市教育委員会と連携し、中学生の海外研修を学生がサポートす

るインターンシップの「海外サポートインターン」、伊勢崎市内の小学生が本学に集い、Globalをテーマにした企画・運営を学生が行う「児童Global Workshop」を実施している。

海外プログラムや海外大学との協定実績が増加し、地域の企業へ多くのグローバル人材を供給している。

海外プログラム数、参加学生数、海外大学との協定数等の増加の実績も重なり、Global Career Training副専攻科目の受講者のコンピテンシーが向上している成果や、地域のグローバル展開企業への人材供給という質的な成果も表れてきている。

成功のポイントや苦労した点

学長によるリーダーシップと小規模大学ならではの機敏な対応が成功の大きな要因として考えられる。また、グローバルという教育目標を柱に据え、グローバル力を有する地域人材＝グローバル人材育成のための取り組みに徹してきたことも、特徴的な要因である。

今後の課題・展望

海外研修プログラムの持続可能性をいかに担保できるかが一つの課題である。現在、協働する地元企業数を増やす取り組みや、個々の教員だけに依存しない研修実施のあり方の検討を行っている。

展望としては、2018年度から開始された「KYOAI GLOCAL HONORS」の定着と成果が期待される。このオナーズプログラムは「地域の未来は私が創る」をキャッチフレーズとして、真の地域リーダーの育成を目的に創成した。数学と面接が必修の高度入学試験を経て選抜されたオナーズ生に、1年次より特別カリキュラムを提供している。新入生は2018年夏にニューヨーク研修を実施し、現地の群馬県人会とタイアップして群馬県を知るという学びを展開した。4年後の彼らの成長が楽しみであり、このプログラムは、グローバル人材育成の必要性を広めるとともに、共愛学園前橋国際大学の存在感を高めるための試みでもある。

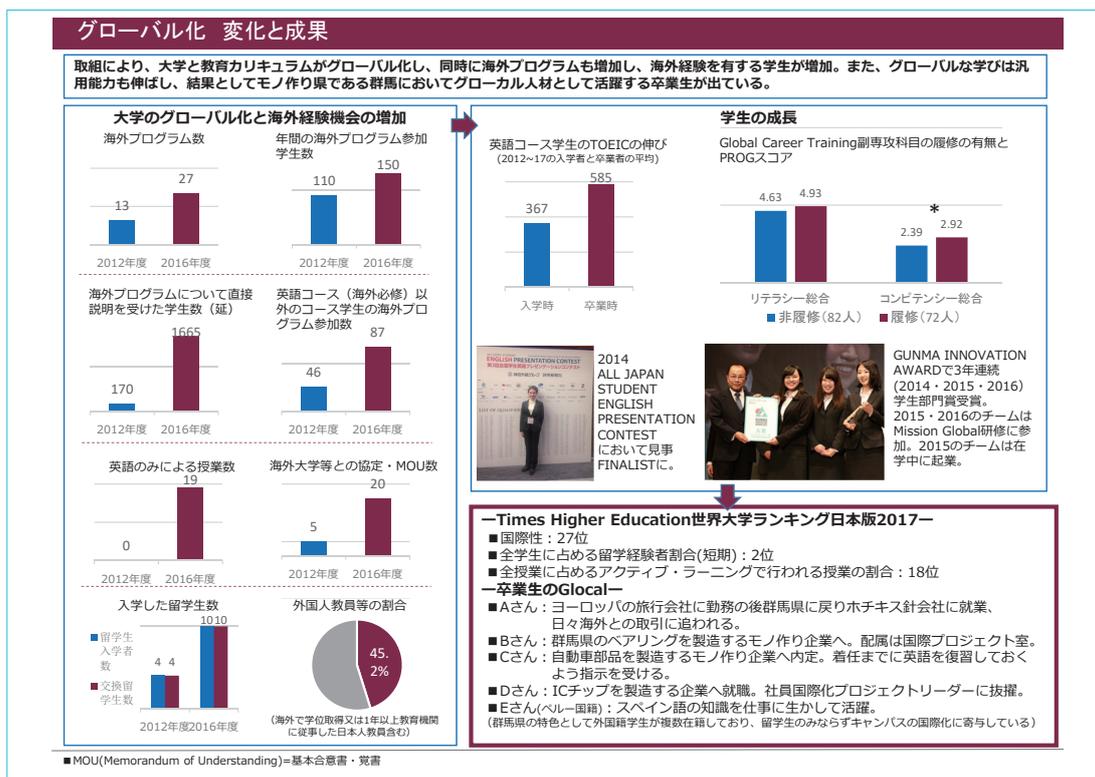


図2 グローバル化変化と成果